

高崎市＞担当部署一覧＞広報広聴課＞芸術・文化ホールを考える＞ 平成 22 年 2 月 1 日～3 月 31 日の意見

私は前橋市在住の五十歳代の音楽を愛好する、また群響を愛する男性です。

一音楽愛好者として私見を若干述べたいと思います。

私が若い頃から聴いた音楽センターの音は、その後建設された前橋市の群馬県民会館と比較してかなり良かったと思います。やはり「音楽センター」と名付けられて建設されたため音響効果は素晴らしいのだな、と感心したものです。それからしばらくの間、群響と音楽センターから遠ざかっていて、久しぶりに群響を聴きにいくと、音がザラついた感じでオーケストラが下手になったのかな、と意外に思いましたが、その後他のオーケストラを聴いてもやはり楽器の音が生のままに聞こえ、響きを感じられないのです。不思議に思い、知己に聞いて回ったところ、息子の音楽の先生が事情を知っていて、改修工事に失敗し、昔響が悪くなったとの事でした。このことは今回の建物診断調査を見させてもらったところに依ると、何回かの改修工事（天井反射板・客席椅子）が原因とされていて、事実とすれば、非常に残念なことです。

さて、音楽センターは、音楽、取分け群響のために造られたホールの筈ですが、現状はその任に堪えません。生のオーケストラが演奏する場ではなくなっているのです。群響に限らず、招聘されたオーケストラにとり、また聴衆にとって音楽センターの今の姿は、不幸な状態にあります。

『群響、また他のオーケストラ演奏のためにより音響効果の良いホールを確保する。またその際に群響の練習場を同時に確保する』この差し迫った必要のために、音楽センターの改修工事、或いは現状を改修しても多目的ホールとして使用できない、あるいは工事その物が困難であることから、取り壊し造り替えの計画が俎上に上ったのでしょうか。

この取り壊し計画に対しては主に建築家から、建設当時の建築様式を伝える「文化財」としての価値を重視した反対意見、また、高崎市民からは建設当時の経緯から、音楽センターその物に対する愛着に依る反対意見が多く見られます。しかし、これらの意見を拝見して危惧を感じるのは、音響効果の悪いホールが生のおケストラの演奏にとって致命傷なることに視野が届いていないことです。

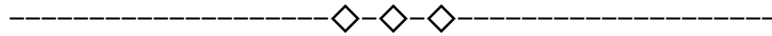
また、反対に新しいホールを造る場合、今のホールを取り壊しするにしても、あるいは別の場所に新築するにしても、目的を欲張りすぎて、群馬県民会館のホールのような、オーケストラにとって音響に問題のある多目的ホールが出来てしまっただけでは意味がありません。

改修工事、取り壊して新築、新しい場所に新琴、の三者の内いずれを選択するにしても、『群響、また他のオーケストラ演奏のためにより音響効果の良いホールを確保する。またその際に群響の練習場を同時に確保する』この命題に立ち返って決断していただきたいと考えています。

私は高崎市民ではなく、改修或いは新築に掛かる計画費用に関して発言する立場にありませんが、音楽センターをオーケストラの演奏以外の目的に使用することは捨て、音響の改善のための改修工事を行うことに依り、嘗ての響きを取り戻せることが出来るのなら、それがより良い選択だと思います。

ミュージカルを呼びたい、有名なポピュラーアーティストを見たい、といった要望には、

不況を脱し財政状況が好転した折に、新しい多目的ホールの建設にゆっくり取り組めば良いのでは、と思います。

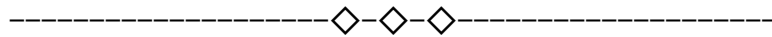


現在の音楽センターは、取り壊さずに群響の練習場として使う。

新しいコンサートホールは、ふれあい広場に建設する。駐車場は地下に作り、城址・シティギャラリーと一体化し、コンサート終了後の混雑を緩和する。

椅子は音楽センターよりも、幅広く取って下さい。トイレも音楽センターの3倍は必要です。

新コンサートの建設費用は、国・県・市の負担と、市民や地元企業の寄付で賄う。市民や地元企業の寄付者名は、新コンサートホールの壁面に刻印し、長く敬意を表し、10万円以上の寄付者は、毎年元旦に行われる群響のニューイヤーコンサートに招待し、市長主催の立食パーティにも招待し氏名を刻印したプレート前で市長と記念撮影をする栄誉を与える。この方法は東京大学でも実施していて好評です。市民とは高崎市民に限らず近隣市民も含める。



今年成人を迎えた二十歳の高崎市民です。

私は小学生の頃からマーチングをやったり、高校では吹奏楽部に所属したりと音楽センターで演奏する機会が何度もありました。学校の授業でも歌舞伎を見たり、群馬交響楽団の演奏を聴いたり、他にもコンサートを聴きに行ったりしました。先日行われた成人式でも、もちろん訪れ、音楽センターは物心付いたときから何度も訪れています。

そんな音楽センターについて、市の広報で改修か建て替えかなどの議論をしているのを見て、今回、意見をメールで送らせていただきました。

単刀直入に言うと、私は音楽センターを新築する事を希望します。もちろん、歴史的背景や音楽センターの現状の記事を全て読んだ上での意見です。今の若い世代の私たちは音楽センターの背景をほとんど知りません。戦後の復興に群馬交響楽団が市民を活気付けた事くらいは知っていますが、A. レーモンドという建築家が設計した事、そして建築として価値のあるものということの記事を読むまで全く知りませんでした。若い世代の私からすれば、おもしろい芸術的なデザインのホールであるとは感じるものの、その他については、座席が狭いし、音響も悪いし、古臭いしであまり良い印象はありません。

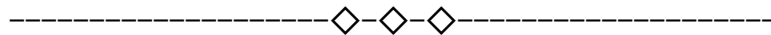
それに、音楽センターを残すと言う意見もありますが、私は音楽ホールは良い音楽を響かせて観客をいかに感動させることができるかということが、一番の目的だと思います。改修をするにしても全ての機能が新築するには及ばず限度がある。それにまして、際限のない費用がかかるのであれば、建築や歴史を守ることも大切ではあるが、新築することによって、これからもホールへ音楽を聴きに足を運ぶたくさんの人々に質のよい音楽を提供する事の方がたくさんの人にとって有益であるし、長い目で見て重要な事だと思います。ホールを使用しないで保存することについては、今でもホールで音楽を演奏されているからこそ価値があるのであって、音楽の演奏されない音楽ホールなんて死んだ建築であり全く価値がありません。白川郷の合掌造り建築は今でも人の営みの中で存在するから価値があるのであって、音楽センターもそれと同じで、現在、人の営みの中にあるからこそ魅力のある生きた建築として存在しているのです。

そして、私が一番心配なことが、もしもホールが建て変わったときに、そのホールのデザインがありきたりで、何の特徴のないつまらないものになってしまうのではないかということです。音響を最適化した、とても良い音楽の聴けるホールだとしても、いまある音楽センターが良いデザインなだけに、それと同じくらいの遊び心やおもしろさのある、あるいは今の音楽センター以上のデザインで、高崎が「音楽の街」であることを今よりももっともっと全国にアピールできる、高崎市のシンボルになるような建築にして欲しいです。

私は今、多摩美術大学に在学中ですが、多摩美術大学の図書館のデザインを担当した伊東豊雄（いとう・とよお）さんなど、日本にもすばらしい建築家はたくさんいます。もしも建て替えが決まった場合には、お金の問題もあると思いますが、絶対にホールのデザインには力を入れて下さい。

最後になりましたが、音楽センターをめぐるっては人それぞれ意見が異なり、今後意見をまとめていくのが、とても大変なことかと思いますが、ぜひ慎重に話を進めていって欲しいと思います。

社会学や建築については専門家のインタビューをしているようですが、デザインについてはまだまだ意見が少ないようなので、ぜひデザイナーの方にも意見を聞いて欲しいです。長くなりましたが今後を担う、若い世代の1人として、意見を反映していただければ幸いです。



多目的ホールは無目的ホールです。

どっちつかずのホールに多額の税金を投入するのはもったいないです。

音楽センターは音楽専用ホールなのに、演劇などの舞台装置のために反響板を隙間だらけにしたのが、音響劣化の原因ですよ。

今回の問題の一番の原因であり、反省点です。

なのに、また同じことの繰り返しに、なぜ巨費を投入するのか、わかりません。

多目的ホールでは、音楽のある町、高崎のアイデンティティを保てません。

音楽だけのためにこれだけのことをやっている、という理念が示せないです。

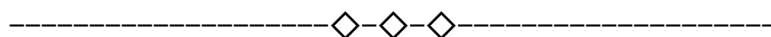
田舎者がまたでっかい公民館を造ってら、という声が聞こえそうです。

お願いします、日本一のコンサートホールを造ってください。もう一度音楽センターを造った時の気概を見せてください。

そうすれば、演劇など上演する暇がないくらい全国から演奏家や聴衆が集まってきますよ。

高崎をクラシック音楽のメッカにする、そうゆうつもりはもうないのですか？ あっちにもこっちにも配慮して、この程度で十分だろう、というホールでは、かならず不満が出てきます。

新ホールができて、何も変わらないで、不満と借金だけが残るようなことがないように祈らざるを得ない心境です。



群馬音楽センターについて、群馬出身者として、気がかりです。一言意見を申しあげます。

「群馬音楽センターを世界文化遺産に」しよう

群馬音楽センターは、アントニン・レイモンドという高名な建築家が設計した、非常に芸術性の高い建築物です。

また、市民が建てたものです。そして、群馬交響楽団という日本の音楽に強く影響を与えた楽団の基地です。

それなりに文化的に重要な役割を果たしているものと考えます。

ところで、先日、オーストラリアのシドニーに行ってきました。

シドニーのオペラハウスは、1973年に建てられたものです。

それなりに美しく、文化的にも価値あるものと思われました。

そのオペラハウスがユネスコの世界文化遺産に指定されているとのことでした。

オペラハウスは群馬音楽センターよりも新しいものです。

ユネスコでは、新しいものでも、文化的に価値あるものであれば、世界遺産に指定する方針になったとのことでした。

オペラハウスはそのような経緯で世界遺産に指定されたようです。

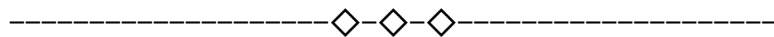
ブルーノ・タウトが設計したドイツの集合住宅も世界遺産に指定されたようです。

このような状況ですから、群馬音楽センターも、文化的に群馬・日本において重要な建築物と考えられますので、世界文化遺産に指定されて、引き続き保存・利用されていくべきものと考えます。

正直、富岡製糸工場よりも文化的にはるかに重要な遺産であると考えます。ちょっと老朽化したからと言って、これを取り壊すなどということは狂気の沙汰です。これこそ文化の貧困です。

文化的に価値を認め、保存活用していくことこそ、文化の発展に繋がるものです。

老朽化というなら、法隆寺や東大寺のほうがはるかに老朽化しています。



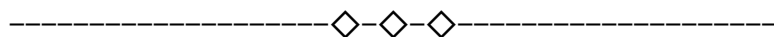
まだ新ホールを建設すると決まったわけではないようですが、もしその方向になった場合、是非お願いしたいことがあります。

立地は高崎駅徒歩圏内にしてほしいということです。

そうでないと車を持っていない人（主に学生や老人）は簡単にアクセスできません。現状では群馬のバス運行にも期待できません。

近代美術館など、芸術に関心を持っていたとしても中高生はなかなか行くことがありません。

また、県外に対しても、高崎駅近辺のほうが市の顔としてのアピールになりますし、県外客も来やすいでしょう。



お問い合わせ先

〒370-8501 群馬県高崎市高松町 35 番地 1

広報広聴課

027-321-1205 027-328-2726